



増刊号

更生 刻々

法務省東京矯正管区更生支援企画課

☎048-600-1560 (直通)

✉ 1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp

ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/
kyousei08_00101.html



令和4年6月15日発行

「関東更生支援ネットワーク」第1回再犯防止・更生支援セミナー特集

見つめる 「罪を犯した女性」

「関東更生支援ネットワーク」の会員向け第一回再犯防止・更生支援セミナーを、5月31日に東京矯正管区で開催しました。テーマは「罪を犯した女性の現状と、社会復帰に必要なこと」。このセミナーは、罪を犯した女性の背景には何があり、社会復帰するには何が課題となっているのか、刑務所や少年院などで実際に彼女たちの支援に当たる職員を登壇者として招き、会員の皆様と一緒に考えることを目的としたものです。

東京矯正管区 佐々木更生支援課長あいさつ

このセミナーはコロナ禍の影響で一度延期となりましたが、応募締め切り日を待たずに定員に達することができました。皆様の関心の高さがうかがわれるところです。

本日のテーマの主役であります「罪を犯した女性」についてですが、刑務所に入る男女の比率は、女性が圧倒的に少ないという特徴があります。それがゆえに女性特有の問題は、今まで、なかなか見えにくい点があったと思われかもしれませんが、5月19日に「困難な問題を抱える女性支援法」が衆議院で可決されたことに伴い、「罪を犯した女性」は今まさに大きな社会課題として着目されているところです。

本日のセミナーが、会員の皆様のみならず実務に携わっている私たちにとっても、実りある有意義なセミナーとなることを願い開催しました。会員の皆様のおかげを持ちまして、盛況のうちに終了しました。この場を借りて感謝申し上げます。



虐待体験など多い／薬物・窃盗で7割／犬も支援に活躍

発表・実践報告

○罪を犯した女性の現状と課題

東京矯正管区
更生支援企画課 矯正専門職

罪を犯した女性の傾向について、統計から見たデータを用いて説明しました。

罪名別構成比では、女子受刑者のうち、「窃盗」と「覚醒剤取締法違反」が約8割を占めていること、65歳以上の比率が増加し、高齢女子受刑者のうち、約9割が「窃盗」であることが示されました。

また、女子受刑者及び女子少年院入院者は、過去に虐待を受けるなどの被害体験をした者が多いこともわかりました。

○女子受刑者の現状と栃木刑務所の取組

栃木刑務所 統括矯正処遇官

栃木刑務所所在者の特徴として、「薬物」と「窃盗」で約7割を占め、日本人受刑者の4人に1人が65歳以上の高齢者、そのうち7割が「窃盗」での服役であることが示されました。

栃木刑務所では、「女子施設地域連携事業」として、地域の医療・福祉等の専門家の協力を得て、処遇の充実を図っていることが報告されました。

実施している内容

- ・看護師、保健師による工場就業者の健康相談
- ・福祉関係者による満期釈放後の生活に対する指導
- ・理学療法士・作業療法士・健康運動士による身体機能維持等の運動指導
- ・介護福祉士による受刑生活上の介護のサポート
- ・助産師による妊婦・母親指導

○女子少年の現状と

榛名女子学園の取組

榛名女子学園 社会福祉士

榛名女子学園在院者の特徴として、知的障害、精神障害、発達障害など配慮を要する者が多いこと、虐待の体験をした者が半数以上を占めているなどが挙げられます。

このような在院者の特性に配慮した取組として、「パートナーシップ講座」や「個別のニーズに応じた支援を必要とする在院者の処遇の充実」など、独自に取り組み、在院者の生命尊重教育や本人の特性に応じた支援を実施していることが報告されました。

パネル
ディス
カッション

パネリスト

東京矯正管区
栃木刑務所
榛名女子学園
さいたま少年鑑別所

更生支援企画課 矯正専門職
統括矯正処遇官
社会福祉士
地域非行防止調整官

聞いて 深める 答えて 広げる

○女性の被收容者として配慮を有する点や特徴について

栃木刑務所では、高齢受刑者は「受刑者」である前に「高齢者」という認識をし、地域連携事業における専門家により身体機能維持等の運動指導を行うなどして、出所後の社会生活につながるよう配慮しています。

榛名女子学園では、寮職員は本人の睡眠状態、食事量、言動、体調等、日頃から観察しており、変化に気付くようにしています。また、本人の言動が、わがままからなのか、発達障害やトラウマからなのか、判断できないことがあるため、精神科診察の後には、必ず精神科の医師、寮職員、調査支援職員及び社会福祉士が参加するカンファレンスを行い、情報共有を行うとともに、精神科医師から本人の症状について説明を受け、アドバイスをいただき、処遇や社会復帰支援に生かしています。

罪を犯した女性は希少であり、被害経験、子の養育、メンタルヘルス等、男性とは異なるニーズを有し、女性の再犯抑止にはそのニーズに対応した支援が必要です。また、これらのニーズは諸外国でも共通して見られるものの、高齢者の多さは日本に特有の事情であることが、地域非行防止調整官から示されました。

○さまざまな職種の方に矯正施設での処遇に関与いただいていることに対する感想

矯正職員の知らない分野について、民間の専門家が知恵を与えて下さることで、こんなにも処遇が充実するのだと実感しています。

○罪を犯した女性の社会復帰に必要だと感じていることについて

女性の脆弱性に対するケアが必要で、ケアは早ければ早い方がよいと思います。女子受刑者の多くがトラウマ体験を有し、刑務所が安心だと言う者すらいます。さいたま少年鑑別所における地域からの相談は、過半数が母親からのものです。米国の研究から、保健師がハイリスク母子を妊娠中からケアすると、母親の安定のみならず子の非行も大幅に減ることが分かっており、究極の非行予防は子がお腹にいる時から始まるのです。



安心が持続する環境の提供が重要だと感じています。本人の安心を支えるためには、本人の支援者にも安心していただけるような仕組みづくりが必要だと思います。そのためにも、施設の内から支援のネットワークづくりを行うことが必要です。

被害者がいることを忘れてはならないと考えています。再犯すると新たな被害者が生まれます。問題の芽を小さなうちにつぶしていくには、地域の力が必要です。

更生への思い 両手からあふれる 参加者アンケート 意見や感想

▼地域社会と矯正施設との交流が進むとよいと思いました。▼官民が協力できる体制づくりのためにこのネットワークが生かされることを願います。▼かねてより関心のあったテーマで、豪華な登壇者の話が聞けました。▼今後もさまざまなテーマで続けてほしいです。▼現在の自分の業務につながる大切な学びとなりました。▼日常の業務に追われ、視野が狭くなっていることに気づいた。▼この分野に協力して下さる方がこれだけいるとわかり大変嬉しく思った。▼これから保護司の学習機会が増えることも可能と感じた。▼「男は経済的自立や仕事の達成などで成長する」が「女は身近な他者との関係を通じて成長する」という捉え方も納得した。

◀名刺に笑顔を添えて、ネットワークづくりも行われた

